

# 「東日本大震災」対策 news NO.41

2011年5月1日(日)

生協労連震災特設 URL <http://cwu.jp/action-cms/shuto/>

全国生協労働組合連合会

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-1-9

TEL 03-3408-0067 <http://cwu.jp/>

FAX03-3408-8955 QYG03057@nifty.ne.jp

## 全労連が「大震災・緊急労働相談110番」を実施 深刻な労働相談が殺到

東日本大震災から49日目となった4月28日、全労連は「大震災・緊急労働相談110番」を実施しました。大震災の地震と津波被害、放射能汚染が長期化するも、雇用への影響が全国的に広がっています。とくに岩手・宮城・福島などの被災地では多くの企業が休業、事業縮小、工場閉鎖、企業倒産・廃業などに追い込まれています。

こうしたなかで全労連は、地場の中小零細企業の再開を支え、そこで働く労働者・家族の雇用・生活・暮らしを応援するため、全国で相談活動を実施しました。

被災地岩手からの相談は、「震災後3月末で休業し、4月から再開したが余震でまた休業し、4月の給料は7万円しか入らず生活できない。所持金は3千円程度で食料も底をついてきた」「会社が流され廃業し、休業手当を貰っている。所得税は下がり、雇用保険はないが『地方税と社会保険料は従来どおり』では家族2人で暮らせない」「事業主として仕事をしていたが、津波で家も流され仕事も無くなった。住宅支援、再就職支援など金銭的な支援はないか」などの相談が寄せられました。

宮城からは「開業医のところで働いていたが今日退職を告げられた。給料は3月分が11万5千円、4月分は支払わないというが、どうすればよいか」「工場が液状化により被災し、自宅待機させられているが、いまだに賃金の扱いについて説明がない」「タクシー会社でアルバイトで働いていたが、車が多数流され、部分休業ということで現在自宅待機中。これからの生活が心配」などの相談が寄せられました。

「温泉旅館の板前をしているが、お客が減少したため退職させられた。ハローワークで求職活動中だが仕事がなく困っている」（福島県労連）、「仙台市で被災し、妻の実家のある釧路に避難し、ハローワークで失業給付の手続きをしたが自己都合とされた。震災による離職にならないか」（道労連）、「岩手の取引先が国の指導で災害復旧最優先ということで取引していた公共事業が停止になった。このような場合、国の補償はあるのか」（山形県労連）、「仙台で被災し、夫の会社が稼働しなくなって辞めた。実家の福岡に帰って出産に備えているが、雇用保険が自己都合扱いで3カ月待機になり、収入がなく困っている」

「ニッサン（荻田）工場で部品が入らず、3月に13日間、4月に14日間休業し、休業手当は払われたが、大幅な減収となった。有給休暇の扱いはできないか」（福岡県労連）、「登録型派遣で、旅行会社の添乗員をやっていたが、震災後自宅待機になり、4月10日にもうしばらく仕事がないのでやめてくれといわれた」（茨城労連）など、いずれも深刻な相談が寄せられました。

（全労連メールニュースより）

## 生協しずおか労働組合 2400作戦で継続して募金と浜岡原発即時停止を街頭で訴える

「浜岡原発即時停止署名」と「東日本大震災救援募金」を労働組合（自治労連・建交労・高教組・生協労組等）と市民団体の仲間33名が12時より1時間行いました。

水曜日は定休日にあたる店も多く、人通りは通常の昼休み時間帯より少なめでしたが、署名は153筆集まり、募金は5091円集まりました。「浜岡原発即時停止署名」については、賛同して即時署名となる人と、チラシも受け取らない人に二分される様相が多少不安ですが、この事案は急を要するので、継続していかなければならないことを確信しました。

# ちば、さいたま、とうきょう、コープネット・子会社、労働組合が共同で 東日本大震災復興支援の職員ボランティアの募集呼びかけ

ちばコープ・さいたまコープ・コープとうきょう・コープネット及びその子会社の生協と労働組合で、東日本大震災被災地支援ボランティアの募集がはじまりました。このとりくみは、コープネット人事教育部が窓口となる「ボランティアの会事務局」が募集・集約を行い、グループ内で実施をしている3つのルートに連絡をし、送り出すというものです。生協労連経由もその1つとなっています。具体的な内藤は以下の通りです。



派遣コープ/団体	派遣先	派遣期間	ボランティア要請内容
①さいたまコープ	南相馬市災害ボランティアセンター	木～日 3泊4日 5/5～毎週5人	がれき片付け・泥出し
②東京都生協連 ⇒東京災害ボランティアネットワーク	東京災害ボランティアネットワーク登米市支援センター ⇒石巻市・南三陸町	土～日 8泊9日 土～水、水～日 4泊5日 いずれかで毎週2～3人	避難所で総合受付、緊急支援物資の整理、遺品の清掃、被災者の話し相手
③労働組合⇒生協労連⇒全労連	災対連大船渡ボランティアセンター・石巻支援共同センター	月～月、木～木 7泊8日 月～木 3泊4日、木～月 4泊5日	公共施設の片付け・清掃、被災家屋の清掃・後片付け、被災者の御用聞き・支援物資提供

## 第82回メーデー 大震災と福島原発事故からの一刻も早い生活再建と復興、東電への賠償責任求める

第82回メーデー中央集会は、代々木公園で22,000人の参加で開催されました。今年のメーデーは、去る3月11日に起きた東日本大震災、大地震と直後の大津波、東京電力福島第1原発事故による大量の放射能流出が今も東北・関東一円にも重大な影響を及ぼしているという、前代未聞の大震災から50日を迎えての開催となりました。

主催者あいさつに立った全労連の大黒議長は、第1に、前代未聞の大震災に対して、政府、各自治体に被災者の皆さんが一刻も早く人間らしく暮らせる条件の整備を求め、東京電力に対して被災者とご一緒に、生活再建が図れる損害賠償を求める決意を固めあいたい、第2に、大震災の復旧・復興と今後の日本社会の有り様が大きく関わっており、労働運動が果たす役割について確認し合いたい述べ、被災者の生活再建を土台にして被災者の要求とコミュニティーを大切にした復興、被災者の働く場の確保と雇用の創出、「働くルール」を確立し、「貧困と格差」の解消や安定した雇用と社会保障の拡充を求めました。そして、最後に、雇用問題と春闘課題の引き続きの追求が重要であるとして、雇用と地域経済を守るために財界・大企業に社会的責任を果たさせるたたかひの重要性を強調しました。

集会後参加者は3コースに分かれてデモ行進をおこないました。メーデーには関東地連を中心に60人が参加しました。

